

H31 改訂版

	項目	8	7	6	5	4	3	2	1
研究活動	1 研究活動への態度	研究計画を自ら立て、担当者とのコミュニケーションをとりながら、適切に主体的に研究を進めている。データや資料は適切に保管されている。	研究計画を担当者とともに立てることができ、担当者との指導を自ら仰ぎ、適切に研究を進めることができる。データや資料は概ね適切に保管されている。	研究計画をたてることは不十分であるが、研究活動は最低限進めている。データや資料の保管において、十分な状況ではない。	研究計画を立てることができず、いつ何をすればよいか理解できていない。研究活動も不十分である。データや資料の保管ができていない。				
	2 研究に対する熱意	研究の進捗状況が適切に報告され、担当者とのコミュニケーションが取れている。提出物は、指導を受け修正した状態で期限内に提出されている。	担当者とのコミュニケーションは取れており、提出物は担当者の助言を受けており、期限内に提出されているが、修正は不十分である。	担当者とのコミュニケーションが満足にとれておらず、研究活動の報告ができていない。提出物は提出されているが、不十分である。	担当者とのコミュニケーションがとれていない。提出物が提出できていない。				
	3 研究課題の設定	課題設定にあたり、背景、問題意識を十分に理解しており、研究の意義・影響についても多面的に理解している。	課題設定にあたり、背景、問題意識を理解しており、研究の意義・影響についても理解している。	課題設定にあたり、背景、問題意識を十分に理解しておらず、研究の意義・影響の理解も不十分である。	課題設定が不十分である。				
	4 課題と自分との関わり	研究課題と自分との関わりを理解し、当事者意識をもって研究を進めている。	研究課題と自分との関わりを理解は十分ではないが、当事者意識をもって研究を進めている。	研究課題と自分との関わりがよく理解できておらず、当事者意識が不十分である。	研究課題と自分との関係を理解せず、当事者意識をもてていない。				
	5 研究のデザイン	研究目的を達成するために、ふさわしいと考えられる研究方法を採用している。	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している。	研究方法の選択にやや疑問が残る、他に適当な方法が存在する。	研究目的と研究方法が合致していない。				

	項目	8	7	6	5	4	3	2	1
研究内容 論文 レポート	1 研究の位置づけ	先行研究や現状の問題点を正しく調査し、自らの研究の意義を明確に理解している。	先行研究や問題点の調査は十分ではないが、自らの研究の意義は理解している。	先行研究や問題点の調査が不十分である。	自らの研究の意義を理解していない。				
	2 研究の明示	研究課題とその背景、問題意識、研究目的について、それらの関連性を論理的に示している。	研究課題とその背景、問題意識、研究目的について、それらの関連性を示している。	研究課題とその背景、問題意識、研究目的について示しているが、それらの関連性は曖昧である。	研究課題とその背景、問題意識、研究目的について明確に示していない。				
	3 調査の妥当性	研究目的を達成するためにふさわしいと考えられる調査を採用し、その手続きがわかりやすく明確に示されている。	研究目的を達せするのに適していると考えられる調査を採用し、その手続きが示されている。	研究目的を達成するのに適していると考えられる調査を概ね採用しているが、その手続きが不明確である。	研究目的を達成するための妥当な調査を採用しておらず、その手続きが明確でない。				
	4 データ分析・結果の妥当性	データを十分に活用し、客観性を確保した適切な分析と結果が示されている。	データの解釈に歪曲はないが、恣意的な抽出など、客観性を欠く部分がある。概ね妥当な結果ではあるが、改善の余地がある。	データの処理・活用が不十分であり、結果の理解や表現に疑問が残る。	データの処理・活用が適切ではなく、結果の理解や表現に間違いがある。				
	5 考察・結論の論理性	論理的で適切な考察がなされており、考察に基づいた結論は、研究目的や研究課題に対応している。	適切に考察がなされており、考察に基づいて結論が述べられている。	考察や結論において、論理的矛盾が見られ、適切に述べられていない。	考察や結論が述べられていない。				
	6 研究の展望	研究の問題を明らかにし、研究の限界を理解している。問題点や限界を克服する研究の展望が描けている。	今後の研究の展望は描けているが、研究の問題点や限界との関連付けが不十分である。	研究の展望に妥当性がなく、研究の問題点や限界の理解、関連付けが不十分である。	研究の展望が描けていない。				
	7 文章表現	誤字・脱字がなく、適切な表現が使われていて理解しやすい。マジックワードの乱用を避け、用語を適切に定義づけている。	誤字・脱字はほとんどなく、適切な表現が使われており、概ね理解できる。定義されていないマジックワードや用語が一部使用されている。	誤字・脱字がある。文のつながりがわかりにくい部分がある。定義されていないマジックワードや用語の使用が目立つ。	誤字・脱字が多く、文のつながりも不明瞭で、読み進めることが困難である。用語が正しく用いられていない。				
	8 書式・レイアウト	規定の書式設定、目次・脚注・図表は全て適切に示されている。	規定の書式設定、目次・脚注・図表は、概ね適切に示されている。	規定の書式設定と異なり、目次・脚注・図表は適切でない部分がある。	規定の書式設定と著しく異なり、目次・脚注・出典・図表の記載にも不備が目立つ。				
	9 出典の明示	出典をすべてに適切な内容で記載している。	出典をすべてに記載しているが、記載内容の一部不備がある。	出典を記載しているが、漏れや記載内容の不備がある。	出典の記載に不備が目立つ。				

	項目	8 7	6 5	4 3	2 1
ポスター 口頭 発表	1 研究課題と目的の提示	研究の目的や課題が明確である。それらは研究の動機や背景をもとに導き出されており、理解しやすい。	研究の目的や課題が示されている。研究の動機や背景も示されており、目的や課題とのつながりが理解できる。	研究の目的や課題が示されているが、研究の動機や背景との関連付けが不十分である。	研究の目的や課題、動機や背景が明確ではなく、関連付けが不十分である。
	2 調査の提示	研究目的を達成するためにふさわしいと考えられる調査を採用し、その手続きがわかりやすく明確に示されている。	研究目的を達せするのに適していると考えられる調査を採用し、その手続きが示されている。	研究目的を達成するのに適していると考える調査を概ね採用しているが、その手続きが不明確である。	研究目的を達成するための妥当な調査を採用しておらず、その手続きが明確でない。
	3 調査結果の提示	結果は、図表や写真などを用いて適切に示されており、効果的に理解しやすい。	結果は、図表や写真などを用いて示されており、概ね理解しやすい。	結果は、図表や写真などを用いているが、その理解や表現は不十分である。	結果を明確に示していない、もしくは結果の理解に大きな間違いがある。
	4 考察・結論の提示	論理的で適切な考察がなされており、考察に基づいた結論は、研究目的や研究課題に対応している。	適切に考察がなされており、考察に基づいて結論が述べられている。	考察や結論において、論理的矛盾が見られ、適切に述べられていない。	考察や結論が述べられていない。
	5 論理性と客観性	情報は客観性を持ち、論理的に分類・整理されており、展開が適切でわかりやすい。	大部分の情報は客観性を持っており、概ね論理的に分類・整理されている。展開は理解できる。	客観性を欠いた情報があり、論理的な分類・整理が不十分で、展開がわかりにくい。	情報に客観性を欠いており、論理的な分類・整理ができていない。研究内容・展開がわかりにくい。
	6 出典の明示	出典をすべてに適切な内容で記載している。	出典をすべてに記載しているが、記載内容に一部不備がある。	出典を記載しているが、漏れや記載内容の不備がある。	出典の記載に不備が目立つ。
	7 デリバリー：発表の態度	自分の言葉で聴衆に訴え、聴衆の興味や理解を深める発表となっている。全体を通して聞き取りやすい。	聴衆に視線を向けて発表しており、聞き取りやすい。	聴衆にわかりやすく発表することを意識できていない時もあり、発表の準備に改善の余地がある。	聴衆を意識していない。声が小さい、スクリプトに頼るなど、発表の準備が不足している。
	8 デリバリー：デザイン	文字の色、大きさは適切で読みやすく、効果的にレイアウトされている。	文字の色、大きさは読みやすく、内容に沿ってレイアウトされている。	文字の色、大きさは読みにくいところがあるが、内容に沿ってレイアウトされている。	文字の色、大きさが不適切で読みにくい。
	9 デリバリー：図表・写真	全ての絵や図表は、適切に使われ、効果的に用いられている。	おおよその絵や図表はわかりやすく、発表内容に沿っている。	絵や図表は用いられているが、発表内容の理解を進めるものにはなっていない。	絵や図表は適切に使われていない。
	10 質問への対応	質問の意図を的確に理解し、建設的な議論ができるように対応している。	質問の意図を理解し、丁寧に対応している。	質問の理解及び対応が十分ではない。	質問の理解及び対応ができていない。

H30 改訂版

リサーチトピックにおけるルーブリック				
	4	3	2	1
リサーチトピック	どのような現象や問題を研究するのか明確である。	どのような現象や問題を研究するのか明確である。(標準)	どのような現象や問題を研究するのかはある程度明確である。	どのような現象や問題を研究するのかは明確でない。
研究テーマの背景	そのトピックを取り上げる社会的意義を多面的に認識できており、関連事項への理解も深い。	社会的意義を認識できており、それについての理解もある。	社会的意義は認識できているが、理解が薄い。	社会的意義がない。
リサーチエスチョン	トピックの中から、表現可能な具体的な研究内容を設定しており、設定に工夫が見られる。	トピックの中から表現可能な具体的な研究内容は設定している。(標準)	トピックの中から具体的な内容を設定しているが、漠然としたものである。	トピックの中から具体的な内容を設定できていない。
先行研究	研究テーマの背景・リサーチエスチョンに関連する文献・論文を確認できている。多角的に、賛成・反対両面の主張を確認できている。	研究テーマの背景・リサーチエスチョンに関連する文献・論文を確認できている。	不十分ではあるが、テーマに関連する文献・論文を確認できている。	関連する文献・論文を確認できていない。
研究計画	研究の全体像を理解しており、研究項目(先行研究収集・分析・調査)の見通しがある。	研究の全体像をある程度理解している。必要な研究項目に対してある程度の見通しがある。	研究項目があいまいで、研究の全体像が見えにくい。	研究項目の計画がない。
調査	観察・ドキュメント・インタビュー・アンケート等の具体的な調査を自分の研究に関連付けて計画し、対象・期間・内容も想定できている。	具体的な調査を計画し、対象・期間・内容もある程度想定している。	調査を計画しているが、対象・期間・内容については想定できていない。	調査計画がない。
思考の展開	トピックやクエスチョンについて、多面的・多角的に捉えることができ、視点を柔軟に変えることができる。	トピックやクエスチョンについて、ある程度多面的・多角的に捉えることができ、指導すれば視点を変えることができる。	トピックやクエスチョンについて、多面的・多角的に捉えようとしているが、理解が薄い。	トピックやクエスチョンについて、多面的・多角的に捉えることができていない。

レポート・課題研究論文評価におけるルーブリック				
	4	3	2	1
論理展開	客観性のあるデータに基づいて論理展開を明確にできている。内容は正確で間違いがない。	大方は客観性のあるデータに基づいて展開している。内容はほぼ正確であるが不正確なものも含まれる。	内容は大部分が正確であるが、客観性のないデータを利用しており、論理展開に矛盾が見られる。	データがなく論理展開が矛盾している。大切な情報が不足し、内容は間違っただけのや不正確なものも含まれる。
文章表現	誤字・脱字がなく、適切な表現が使われている。文のつながりも明瞭で読みやすく、展開がスムーズに理解できる。	誤字・脱字はほとんどなく、適切な表現が使われている。文のつながりはある程度スムーズに理解でき読みやすい。	誤字・脱字がある。適切な表現が使われているが、文のつながりが不明瞭な箇所がある。	誤字・脱字が多く、表現が不適切な箇所がある。文のつながりも不明瞭で読みにくい。
書式・レイアウト	規定の書式設定に全て当てはまり、目次・脚注・出典・図表の整理も適切に行われている。	大方は規定の書式設定に当てはまる。目次・脚注・出典・図表の整理は、適切でない部分がある。	規定の書式設定と異なる部分が目立つ。目次・脚注・出典・図表の整理は、適切でない部分がある。	規定の書式設定と異なる。目次・脚注・出典・図表も整理されていない。
先行研究・調査・分析	5つ以上先行研究を分析しており、そのうえで足を使った調査をしている。調査の手続き・分析も適切である。	3つ以上先行研究を分析しており、そのうえで足を使った調査をしている。調査の手続き・分析は一部不明瞭な点もある。	1つ以上先行研究を分析し、調査している。調査の手続き・分析は不明瞭な点もある。	文献による先行研究の分析がされておらず、調査も実施していない。

プレゼンテーションのルーブリック				
	4	3	2	1
内容の適切さ	十分に調べられており、必要な情報はすべて含まれている。内容はすべてテーマにそっており、正確で間違いがない。	調べた結果が見られ、一部不正確な情報があるものの、必要な情報は大方含まれている。内容の大半はテーマにそっている。	調べが不十分であり、いくつかの必要な情報が不足していたり、間違っていたりする。もしくは、テーマに沿っていない内容が目につく。	調べが不十分であり、間違っただけの情報も多い。内容はテーマの主要な部分を踏まえておらず、テーマにそっていない。
構成の論理性	情報は正しく分類され論理的に並べられている。内容を理解しやすい展開となっている。	大部分の情報は正しく分類され論理的に並べられている。内容を理解しやすいような展開を試みていることが分かる。	いくつかの情報は論理的に並べられている。しかし、分類が不適切で、関連が不明確な情報が半分程度見られる。	情報の並べ方に論理性が不足している。情報の分類がなされていない。
スライド・ポスターのわかりやすさ	文字の色、大きさ、全ての絵や図のレイアウトは適切でわかりやすく、発表内容の理解のために効果的である。	文字の色、大きさ、絵や図はおおよそわかりやすいが、更なる工夫の余地がある。内容に合わせたレイアウトはなされている。	文字の色、大きさ、絵や図はややわかりにくく、不足している部分も見られる。	文字の色、大きさ、絵や図が分かりにくく、不足が多い。発表内容の理解を助けていない。
発表技術	姿勢よく、落ち着いて堂々と発表している。聴衆に視線を向け、自分の言葉で発表している。発表全体を通じて、十分な音量がある。	姿勢よく、聴衆に視線をむけているが、自分の言葉で伝えていない部分がある。発表時間の少なくとも80%は、十分な音量がある。	姿勢に気が回らず、発表時間の半分程度は、聴衆に視線を向けていない。スク립トに頼りがちで自分の言葉で伝えていない。発表時間の半分程度は、十分な音量がある。	姿勢が悪い。あるいは、発表中の聴衆に視線を向けていない。スク립トに頼っている。しばしば音量が小さすぎて、全ての聴衆が聞き取れていない。